

特別展

# 皇室のボンボニエール —ご慶事を彩る菓子器—

平成25年 7月27日(土)～10月6日(日)



細見美術館

特別展

# 皇室のボンボニエール —ご慶事を彩る菓子器—

平成25年 7月27日(土)～10月6日(日)

今回ご紹介する「ボンボニエール」は、フランス語でボンボンと呼ばれる砂糖菓子を入れる菓子器のことです。

これらは天皇のご即位をはじめ皇室・宮家の慶事のたびに、金平糖の詰められたボンボニエールが祝宴の記念品として招待された人々に贈られてきました。

本展は、当館で開催した「典雅なる御装束」展(2011年)に続き、特に皇室の慶事の記念に作られた様々なボンボニエールを通して、一般にはなかなか目に触れる機会の少ない宮中文化の一端を紹介します。

またとないこの機会に銀製の小さな箱に込められた雅な意匠、工芸の粋をご観賞ください。

## ボンボニエールとは

天皇または皇室が催された饗宴の際にはいつの頃からか記念品として列席者に贈られてきた銀製の小さな箱。金平糖かそれに近いものを収めることを想定して作られたようで、さまざまな形がある。

[尚、皇室の饗宴で遣われてきた銀製の記念品「ボンボニエール」の呼称が公的に表現されたのは、平成3年(1991)に上梓された秩父宮妃殿下の著書『銀のボンボニエール』(主婦の友社)による。]

\* 会期中のイベント \*

**スペシャルギャラリートーク** ※所要時間 約45分

聴講無料。但し、別途入館料が必要です。

講師・扇子 忠氏(皇室研究家)

日時・7月27日(土) 14:00より

会場・細見美術館 展示室



## 展示構成

### 1 皇室のご慶事と饗宴

皇室のご慶事とはご誕生、ご成年式、ご結婚式、ご結婚記念日、ご長寿のお祝いなどの他、立太子礼、即位の礼、ご在位記念などがあります。こうした儀式・儀礼（皇室行事の場合は天皇陛下主催、国家行事の場合は内閣総理大臣主催）の後には必ず祝宴が催され、招待客には必ずボンボニエールがご下賜されたと思われます。

このほか皇族のご誕生等に加え、外国ご訪問の際の歓送会、ご帰国時の祝祭など皇室の内輪だけで行われるご内宴、さらには宮家のご慶事、国賓をお迎えしての宮中午・晚餐会などもあります。

明治維新以後、今日にいたるご慶事の数々をみていくと、恐らく700種類近いボンボニエールがご下賜されてきたと想像できます。



犬張子形ボンボニエール

昭和8年12月23日

継宮明仁親王(今上天皇)ご誕生

宮中では皇子がお生まれになると枕元にお守りとして犬張子子が置かれる風習がある。これは、お七夜のお祝の記念品。



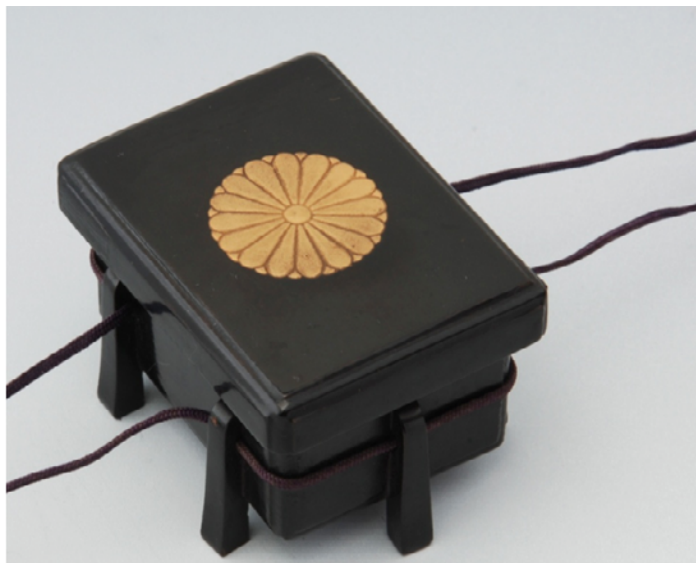
檜扇形ボンボニエール

大正時代

皇族女性の檜扇は、39橋（板）の檜材の杵目挽きを用いて、松と梅の糸花（絹糸の造花）を飾り、六色の絹紐で綴じたものが使われる。

## 2 材質

現存するボンボニエールのほとんどは銀製ですが、中には真鍮製、アルミ製、色絵陶器製、木製漆塗などもあります。特に物資が不足し、贅沢品が政府より統制されていた昭和15年(1940)以後の第二次世界大戦前後のものに銀製以外のものが多く見られます。



唐櫃形ボンボニエール

大正12年4月

皇太子(昭和天皇)台南行啓記念

品の中に「店記」という葉が残っており、それによると京都下京区仏光寺町にあった「赤尾白雲軒」製であることが分かる。



香合形ボンボニエール

昭和18年10月3日

照宮成子内親王(昭和天皇第一女)と  
東久邇宮盛厚王ご結婚

昭和15年7月7日、政府は「7・7禁止令」を発布し貴金属類の加工・売買を禁じたので、皇室でも銀の使用をご遠慮されたと思われる。



### 3 造形

いろいろな形が揃うボンボニエールですが、時期によっては特徴がみられます。

明治時代	四角形箱型の比較的平凡な形状が多い
------	-------------------



台付文庫形ボンボニエール

明治42年4月29日

房子内親王(明治天皇七女)と北白川成久王とのご結婚

本作と同形のものに朝香宮紋入りのものが現存する。北白川家と朝香家とは互いに親しかったので、同じ鋳型が使われたものと推察される。

大正～昭和10年頃	造形的に凝ったものが多い。貝桶形、唐櫃形などのボンボニエールには赤、朱、紫などの絹製の房紐がみられる
-----------	--



鳥籠形ボンボニエール

大正15年9月

スウェーデン皇太子アドルフ殿下・同妃との午餐会

大正15年9月13日に来日されたアドルフ殿下歓迎午餐会では他のボンボニエールが贈られているので、これはその後の送別会のものと思われる。

昭和25年頃～現在

基本的には丸形の香合形がほとんど

**棗形鳳凰文ボンボニエール**

平成2年11月12日

今上天皇ご即位

皇太子時代のご慶事のボンボニエール文には  
鴛鴦文が多いが、天皇にご即位されるので  
吉祥文の最上位とされる鳳凰文が採用され  
たと思われる。

**香合形ボンボニエール**

昭和34年4月13日

皇太子殿下(今上天皇)ご結婚

鴛鴦文はおめでたい吉祥文の一つであるが、  
仲むつまじさを象徴するもの。

## 4 意匠・文様

明治20年代以来、ボンボニエールが下賜されることが恒例化するにつれ、ご慶事や記念に関する意味合いの込められたものが造形に反映されているものが多いですが、文様においては鳳凰・鶴亀・松竹梅といった吉祥文様が多く用いられています。



挿華 梅と竹ボンボニエール

平成2年11月12日  
今上天皇ご即位

平成の即位礼の大饗第一日目ときも、昭和の時と同じように竹と梅を象った挿華がご下賜された。



鶴亀像形ボンボニエール

明治27年3月9日  
明治天皇大婚25年祝典

当夜、宮中饗宴には534人の政府高位高官、上級華族(旧公卿・旧大大名)、在日13カ国の公使夫妻並びに随員57名などが列席した。



八稜鏡形鳳凰文ボンボニエール

大正4年12月7日  
大正大礼大饗

同一の意匠のボンボニエールで裏底に四種類の違う刻印のものが現存することから、四つの業者が制作したことがうかがえる。

## 基本情報・お問合せ

特別展

### 皇室のボンボニエールーご慶事を彩る菓子器ー

平成25年 7月27日(土)～10月6日(日)

開館時間 午前10時～午後6時(入館は5時30分前まで)

休館日 毎週月曜日(祝日の場合、翌火曜日)

入館料 一般1,000円(800円) 学生800円(600円)

※( )内は20名以上の団体料金

会場 細見美術館 京都市左京区岡崎最勝寺町6-3

TEL075-752-5555 <http://www.emuseum.or.jp>

主催 細見美術館 京都新聞社

出品作品点数 約120点

お問合せ先：広報担当 三宅 由紀

TEL/ 075-752-5555 FAX/ 075-752-5955

E-MAIL/ [kouhou@emuseum.or.jp](mailto:kouhou@emuseum.or.jp)